

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	山県市	学校名	山県市立大桑小学校		
校長名	田中 香織	対象学年	全学年	人数	36人
項目 該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科 道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	力いっぱいやりぬく 大桑の子				
活動のねらい	家庭や地域と協働し地域の自然や歴史を探究する活動を通して、大桑の魅力や誇りを実感し、ふるさと大桑への愛着や貢献する意識や態度を育成する。				

1 「ふるさと学習」を通して育みたい資質や能力及び態度

家庭や地域の方との協働を通して、ふるさとを愛し貢献する意識を育てている。このめざす姿は、学校の教育目標を具現するための合い言葉「みんなのために」につながっている。本校では、以下のように、複式学級の特質を活用して、低学年から段階的にテーマを設定して地域講師とともに大桑地区の自然や歴史についての体験活動を実施している。

- ・ 1、2年生：生活科「はなをさかせよう」「ぐんぐんそだてわたしのやさい」
- ・ 3、4年生：総合的な学習の時間「大桑科～大桑の自然環境学習～」
- ・ 5、6年生：総合的な学習の時間「大桑科～大桑の歴史学習～」

教科等横断的な学習として、国語、理科、社会科、特別の教科 道徳等との関連性を図り、言語能力、情報活用能力、問題解決発見能力を身に付けるとともに、子どもたちが大桑地区への理解を深め、ふるさとへの愛着や貢献する意識や態度の育成をめざした。

2 具体的な実践

①1・2年生 「生活科」

- ・ 「はなをさかせよう」～鳥羽川堤防の環境美化活動～
生活科の学習の一環として、「大桑農地環境を守る会」の方と一緒に、鳥羽川堤防沿いにチューリップやひまわりの花を育てている。鳥羽川堤防沿いの遊歩道は、地域の方々の散歩コースや駅伝大会やマラソン大会の走路にもなっているので、美しく咲いた花はそこを訪れる人々の目も楽しませている。地域の方と関わり合いながら、地域のために活動することで地域への貢献感と充実感を味わうことができた。
- ・ 「ぐんぐんそだてわたしのやさい」～四国山公園でのさつまいもづくり～
JAの方の協力をいただいて、四国山公園近くの畑でさつまいもの苗を植え、収穫をした。育てたさつまいもは、お世話になっている方にプレゼントしたり、全校児童で一緒に食べたりするなど、「みんなのために」という貢献する気持ちを育てることにつながった。



※他教科等との関連

- 1年国語「つぼみ」「おおきくなった」
- 2年国語「かんさつ名人になろう」
- 特別の教科 道徳（複式）「あさがお」

②3・4年生 「総合的な学習の時間」～大桑科「大桑の自然環境を守るために」～

1・2年生の生活科学学習を経た子どもたちは、大桑地区、とりわけ鳥羽川周辺の自然の素晴らしさをよく理解している。そこで、中学年になった子どもたちは、「大桑地区の自然環境を守るために自分たちができることを考え、発信していく活動」へとステップアップしていく。

・「鳥羽川のホタルを守ろう」

「大桑農地環境を守る会」の方からホタルの生息する場所や餌などについて教えていただき、ホタルが飛び交う自然豊かな鳥羽川を守るために自分たちができることを考えた。カワニナの餌やりをしたり、ホタルのことについて調べ広めたりする活動を行った。

・「川のりづくり」

山県市北部円原川で、地域講師から川のりが採取できる川の条件や、川のりの作り方を教えていただき、試食をした。円原川は、水が清らかで安定した水量と温度が一定であることを知り、身近な鳥羽川と比較し、川の美しさを守る大切さを再認識する機会となった。

・「粗朶の生産」

地域講師から粗朶の歴史やその重要性についての説明を聞き、実際に粗朶の採集や調査に出かけた。川底に粗朶をひくことで、川底の土の流出と堤防の崩壊を防ぎ、ふるさと大桑を守ることにつながることを学んだ。



※他教科等との関連

3年理科「身のまわりの生きもの」

4年国語「見せ方を工夫して書こう」

特別の教科 道徳(複式)「いのちをつなぐ岬」

③5・6年生 「総合的な学習の時間」～大桑科「大桑の歴史遺産を未来へ」～

大桑地区には、十五社神社、大桑城跡、四国堀等、歴史的遺産が残っている。特に今年度末には、大桑城跡は、国の史跡指定を受ける予定である。市教育委員会、「大桑城を学び・守り・発信する会」、福井市立一乗小と連携し、大桑の歴史遺産を守り、未来へとつなぐ探究活動・発信活動を地域をあげて実施している。

・大桑城跡に関わる探究活動と発信活動

大桑地区に残る歴史について課題設定をし、地域講師等の方々から学んだり、調査したりしたことをまとめ、市内6年生の子たちに向けて発表した(山県市内小学校第6学年対象事業の「山と歴史の学校」における活動の一環として行われている)。他にも大桑地区の公民館行事「かしの木フェスティバル」で地域住民に向けて、また「大桑城講演会」で大桑城跡関係者に向けても発表した。

・福井市立一乗小との交流活動～土岐氏と朝倉氏とのつながり～

室町時代の朝倉氏と土岐氏が姻戚関係であったことを発端にして、令和3年度から両校は、歴史のつながりでオンライン・対面の交流をしてきた。一乗谷朝倉氏遺跡復原町並のガイドをする素晴らしい児童の姿は、同じように発信活動をする本校児童のよい学びとなっている。この交流活動を継続し、500年の歴史を経て、両校が未来への絆を深めていく予定である。



※他教科等との関連

5年国語「伝えたいことを整理して報告しよう」

6年社会科「戦国の世から天下統一へ」

特別の教科 道徳(複式)「曲げわっぱから伝わるもの」

3 児童の様子や変容

児童アンケート結果「地域の人に聞こえる声で挨拶ができる85.3%・地域の活動に参加している88.2%」ふるさと教育を通して、ふるさとへの愛着や貢献することに高まりが表れている。また、保護者アンケート結果「学校は子どもを理解して伸ばす教育をしている100%」、地域からも「今後も子どもたちの大桑城の発表をお願いしたい」との声もあがっている。本校のふるさと教育に対する理解と期待が感じられる。そして児童アンケート結果「自分の考えを頑張って発表している88.2%」にもあるように、ふるさと教育により自信をもって発表したり、表現したりするようになってきた姿から、本教育活動の効果は大きく、学校課題を解決する一助となったことを強く実感している。